

町民の声



下半俵

さ さ き た け お
佐々木 武夫 さん

あの日

あの日、2011年3月11日から10年が過ぎた。生まれ故郷の陸前高田市から19歳で那須に移り住んだのち60歳での出来事だった。

実家は高台にあったため無事だったが、あの美しい街並みは寄木細工の木材をバラバラに散らかした状態だった。他は何もない、瓦礫の山の間の曲がりくねった細いけもの道に近い道らしい所を声を押し殺して泣きながら運転していた。

同乗の親戚がいなかったら気が狂っていたかもしれない。親戚、同級生など多くの知り合いも犠牲になった。中でも私の頼りとする親戚が亡くなり悔しい限りである。

毎年帰郷していた岩手。場合によっては私も含まれていたかもしれない。当時の悪夢を経験した今、防災意識は高くなり、必要な物は常に身近に置く。ガソリンは常時満タンを心掛ける。防災は町にとっても重要です。議会の取り組みを期待すると共に第二の故郷である那須の平穏無事を祈らずにはいられない。

傍聴席

傍聴席から俯瞰する議場の光景は、いつも静寂に包まれ何故か重々しい。質問者と答弁者との紋切り型とも言えるやりとりを経て、やがて議事終了に至る。

町政の課題や運営の是非をめぐる意見が百出、双方が丁々発止、せめぎ合う姿を期待してみるのだが……。もとより、格式かつ厳粛を軽んじるつもりは毛頭ありませんが、時には論戦が白熱化して、議場が緊迫するシーンがあればもっと見応えがあるのにも思う。

本町では、先日令和2年度全国の議会改革調査ランキング60位（町村別では7位）に入ったとの朗報が伝えられましたが、自治体共通の課題として、議会の改革や活性化が叫ばれて久しい。議会開催の通年化や休日・夜間の議会、主要地域での出前議会あるいは以前も経験した小・中学生らによる子ども議会等々、町民との距離をさらに接近させるための方策を工夫してみては。

もう一つ、毎回質問者が片寄る傾向がある。登壇する機会の少ない議員の方々への心積もりは如何に。



グリーンハイツ田中

ごう まさ の り
郷 多典 さん

編集室

「武器よさらば」や「老人と海」などの小説で有名なアメリカのノーベル賞作家・ヘミングウェイの没後から今年で60年。ヘミングウェイは「冰山理論」という文学技法を唱えた。目に見える氷山の一角から水面下に隠れている大きな部分を創造できるように、すべてを書かなくても読者はその奥にある、あらゆるものを感じるという考え方です。

今、教育においても注目されていることに非認知能力があります。テストで測ったり数値化したりできる知的な能力（学力）に対して、「目標意欲」「興味・関心をもつ」「粘り強い」「仲間と協調して取り組む力」などが挙げられます。非認知能力を高めることで学力も自然と高くなるという結果も出ています。価値観の多様化で急速に変化する社会を生き抜く力を育てるものとして、非認知能力向上への取り組みは重要です。

委員 田村 浪行